
めたもるふぉ～ぜっ

もぐらさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

めたもるふおゝぜっ

【Nコード】

N9866M

【作者名】

もぐらさん

【あらすじ】

美都^{みと} 光^{みつる}は一般的な大学2年生

ごくごく普通の私立大学に通っている

勿論人より突起した能力があるわけでもない

特別賢いわけでもない

それでも彼は何にでもなれる素質を持っていた

壺 “日へ異常”

大学というのは思ったよりも楽しい場所だ。

クラブは好きなときに行って好きなときに帰る。

授業が億劫ならサボる。

バイトも出来る。

なんて自由なんだ。

私は横になって羽を伸ばした。

フローリングの床は程よく冷たく気持ちがいい。

日付は6月中旬。

時間は先ほど1時半を少し回ったところ。

高校生のときなら今は5時間目が始まったところだろうか。

あの時は忙しかった反面楽しかった。

勿論今も楽しいが、それよりも楽しく思える。

どちらが楽しかったにしても今よりも充実した毎日だった。

「退屈だあ……」

木曜の昼間。

私はTシャツとパンツ1丁で自室のベットに横たわっている。

誰だ木曜日は休みたいから授業をとらなかったのは。

それは勿論私。

1年の時に少し単位を取るのを頑張った反動が来たようだ。

さて、“私”というのは美都家^{みと}の長男、光^{みつる}のこと。

つまりこの私のことだ。

ついでに言っておくが、美都家は由緒正しき一般家庭。

ご先祖が偉いとか地方の大きな家系だとかではない。

いたって普通の家庭。

兄が居て、妹が居て、母と父が居る5人家族。

そして私を含めて誰も独り暮らしはしていない。

全員がこの一戸建ての家に住んでいる。

家も特別大きくなく、特徴が無いのが特徴。

兄は2歳違い。

今は就職活動の大詰めだ。

最近では1社2社採ってもらえそうでも油断できないらしく、最近では数ヶ月前よりもいつも外を飛び回っている。

内定が決まったという話はもう卒業間際の6月の今でも未だ聞かない。

妹は高校生。

本人は女子高に行きたいと望んだらしいが、今のうちに男性になれておいたほうがいいだろうと父の意見を飲んで共学に進んだ。

自分の意見をあまりしつかり持たず、結構人に流されやすい。彼氏が居ると言う話は聞かない。

「あゝあ、早く風歌ふうかでも帰ってこないかな」

風歌というのは妹の名前だ。

人に言うとか変に思われているが、結構私と妹の仲はいい方だ。今でも兄妹でゲームをしたりすることがある。

仲が良いのはいいことだと自分でも思う。

ついでに紹介するが、兄の名前は聖夜せいや。

私のことを大学生ニートと呼ぶ。

それに関しては自分でも結構自覚できる。

これほど暇ならバイトでも出来るんじゃないだろうか。

正直親に遊ぶ金まで出してもらうことに関しては悪気があり、2、3回程だが短期バイトをしたことがある。

しかし高校時代はバイトをしたことがなく、又、この短期バイトも夏休み等の長期の休みに入っていた為、大学生活とバイトの両立の仕方が分からず正直不安でバイトをする気にならない。

そんなこんなでもう大学2年。

「はあ……」

軽い溜息が出る。

昼間の薄暗い天井は私の行く末を暗示するかのように無表情だ。

「面白くない面してるな」

天井に文句を言うのはそろそろ自分でも暇の限界だと思う。

そんな矢先に突然日常が変化した。

「それは酷いですよ。これでも結構面白いヤツだなんて言われますのですよ。見た目で人を判断するのは悪いことですよ。あ、でも私^{わたくし}は人じゃないのですよ？」

「え？……んなぁあ！！？」

私はベットから跳ね起き、傍にあるもので武器になりそうなものは無いだろうかと探す。

突然左から聞こえる聞きなれない声。

これには驚かないわけが無い。

驚かない人が居るとすれば聞こえていない人かよっぽど心臓に毛が生えているような人だろう。

さて、今傍にあるのはシートと目覚まし時計。

無意識に私は左手に目覚まし時計を持って声の主に向けた。

「いやいやいや。驚かせて申し訳ございませんですよ。私はそんなに怖い人じゃありませんですよ。私はその……あれですよ。創造主^{クリエイター}のお使いですよ。所謂神様の使いですよ。神の使いですよ。ほらほら、武器も何も持っていない可愛い女の子ですよ。無抵抗ですよ。無害ですよ」

その声の主は両手を上げて無抵抗の意思を告げてくる。

よく見ると背は私より20センチ近く小さく、150に行くかどうか。

歳は分からないが見た目で言えば高校1年かもっと若く言うなら中学の2、3年つてところ。

話し方がかなり奇抜で、個人的にめんどくさい。

と、そこまで彼女を下から上に眺めたところで私の左手の目覚まし時計は下ろされることはない。

逆にそこまで言われたら警戒しろと言われているようなもんだ。

私はベットの上で小刻みに震えながら彼女に声を張り上げた。

「か、仮にあなたが私の知らない従兄弟だとしても非常識なヤツだしこの家に望む額のお金は無い！！ 私のサイフには3000円弱しか入ってない！！ どうだ参ったか！！」

その後しばしの沈黙。

どうやら私の頭の中で色々な思考が洗濯機にかけられているようだ。

「あゝ、お金じゃないのですよ。創造主が欲しいのはお金じゃないのですよ。あなたなのですよ」

そしてさらに沈黙。

洗濯機が頭から消え、真っ白な空間が広がった。

「え？」

考える余裕が私から消えた。

そしてこの日から私の日常の中に異常が入ることになる。

これぞまさに“日《異》常”。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9866m/>

めたもるふぉ～ぜっ

2010年10月8日11時49分発行